

ICT通信

秋田県立横手支援学校
図書情報支援部
平成31年3月18日発行
第2号

H30年度横手支援学校ICT活用事例Vol.2

ICT(Information and Communication Technology)は情報通信技術の略であり、教員の現場においてもパソコンやタブレット型端末、プロジェクター、電子黒板等のハードやアプリケーション等のソフトを授業の中で応用する技術を指しています。新学習指導要領においても「授業の中でICTを効果的に活用し、授業方法の改善を図ること」と記されています。

さて、今年度の横手支援学校の授業作りの中でICTをどのように活用したのでしょうか。活用事例として紹介したいと思います。

遊びの指導の授業から

＜ねらい＞すもうを実際に観て、遊びの指導に生かす。

＜インターネットによる動画サイトの視聴＞

- ・紙相撲を題材として取り上げた。遊びに入る前に動画サイトで相撲の取り組みを視聴した。

＜児童の様子＞

- ・映像を熱心に観て相撲の取組に雰囲気を感じることができた。「はっけよい」「のこったのこった」等の言葉を覚えて遊びに生かすことができた。



生活単元学習の授業から

＜ねらい＞・コンサートの練習を映像をもとに振り返る。

＜i-Padの動画撮影機能を活用した振り返り＞

- ・i-Padの動画撮影機能を活用し、練習の様子を撮影した。撮影した映像を児童と視聴しながら、良かった点や気をつける点を確認し、次時の練習に生かした。

＜児童の様子＞

- ・実際に映像を観ることで児童自身の客観的な評価につながった。「表情」や「声」「姿勢」など良かった点や気をつけなければならない点に自分で気づくことができた。



生活単元学習の授業から

＜ねらい＞相手の目を見て、あいさつや話をする。

＜i-Padの撮影レンズを活用した視線を合わせる練習＞

- ・パンやさんを開くため、お客様と視線を合わせる練習のため活用した。i-Padのレンズにちょうど目が重なるよう顔写真を貼り、周りの友達からも評価できるようにテレビにつないだ。顔写真の目を見ることで視線を合わせているのかが映像で評価できる。

＜児童の様子＞

- ・意欲的に活動に取り組み、顔写真の目(i-Padのレンズ)を良く見ようとするようになった。テレビの画面に映る友達の目が、自分を見ているか評価する活動を通して「相手の目を見る」ことが分かった。普段の生活でも相手の目を見てあいさつや話をする場面が増えた。

